

01 ネット時代の成功例に学べ!

ツイッターで情報拡散と
フォロワー増加を狙う新手法

▶ ツイッターのインスタントウィン機能を利用したプロモーションが盛んになっている。

それはツイッターを通じたプレゼント機能で、利用者が①専用アカウントをフォロー、②そのアカウントのツイートをリツイート、③当選結果がリプライやDMなどで利用者へ通知される。と、いう順序で利用される。

日本の清涼飲料水メーカーは、対象のツイートをリツイートすると、自動的に当落がわかるリプライが送られてくるプレゼント・キャンペーンを行った。抽選結果がすぐ分かり、おみくじのような楽しさがウケた。

コンビニの公式アカウントは、唐揚げがその場で当たるキャンペーンを5日連続で実施。当選者に店舗での引換券がもらえるようにして、来店も促した。

インスタントウィンを使うと、アカウントがリツイートされるので情報が拡散される。さらにフォローを応募条件にするとフォロワーを増やせる。

また、すぐに抽選結果が分かるので参加しやすい。毎日試す人も多く、その度に情報が拡散される。

フォロワー増加と情報拡散を狙えるインスタントウィンの利用はこれからも増えるだろう。

02 繁栄企業の成功要因を探る

経営危機のレンガメーカーが
石窯メーカーに転身

▶ 群馬県の創業115年を超える老舗レンガメーカーは、外国産の安いレンガに押されて、廃業も検討するほどの苦境に立たされた。

その時、ピザ店から窯の製作を打診された。イタリアでは砂でドームの型を作り、その上にレンガを載せ固めてピザ窯を作るので、レンガ会社ならできると考えたのだ。

しかし、この工法では窯の内部に砂が残り、ピザの上に着ることがある。そこで同社は、砂の型を使わず、空洞のままレンガをドーム状に積み上げる技術を開発した。

また、ピザの他にパンの窯も製作。250~300℃の熱で20~30分かけて焼くため、長い時間蓄熱できる構造を研究開発した。

さらに肉を焼く窯もつくった。レンガから出る遠赤外線により中までよく焼け、ふっくらとして、食材の柔らかさやうまみを残すことができる。

これらのレンガを使った窯は大好評で、年間200基ほどの石窯を製造し、全国各地のレストラン、ピザ店、さらに日本料理店からの注文が途切れることがない。韓国、台湾、ベトナム、ロシアでも人気となっている。



Check! 要チェック! 進化するプロモーション手法に必要な基礎知識

目指せ!読まれるWEBページ
文字情報コンテンツの作り方《後編》

多くの人に読まれるWEBの文字情報コンテンツは、どう書けば良いか。

前編では、内容がわかる見出しや、検索する人の疑問に答えるようなタイトルをつけることを紹介した。後編では、記事を書く上で留意する点を考える。

文章は簡潔に、1センテンスは短く

販促のためのWEBページは、文学作品でもエッセイでもない。商品・サービスについて情報を伝えることが目的だ。短時間で読めて、簡潔に情報が伝わる文章にしなければならない。そのためには、長い文章を避けて、短めに書くことが求められる。結論を最初に書くことや、箇条書きを使うことも一つの方法だ。

もっとも、必要な説明が長くなることは致し方ない。それを省いてしまったら本末転倒である。

さらに記事全体だけでなく、一つのセンテンスも長くしない方が良い。長い一文は、主語と述語の関係が分かりにくく、何を言っているかわからなくなってしまふ。改行なしで延々と続く文章に辟易して読むのをやめてしまう人も多い。

そこでよく見られるのは、3行毎に段落を分けて、1行あけるというスタイル。これで一文を短くすることができる。

わかりやすく平易な言葉を使う

文中で使う言葉にも配慮しなければならない。専門用語や日常使われない難解な言葉が頻出すると読まれない。書き手の自分がわかるからといって、読み手は誰でもわかるわけではないのだ。

専門用語でなくても、漢字が並ぶと堅いイメージになる。「是非御賞味頂きますようお願い致します」ではなく、「ぜひお召し上がりください」とした方が良いだろう。

また、「~という事」「こんな風に」は、それぞれ「~ということ」、「こんなふうに」とひらがなにした方が読みやすい。もちろん固有名詞や通常漢字で書く言葉は漢字で書けばよい。

最近では丁寧な書こうとしたのか「~させていただきます」が多い。しかし、同じ言い回しが何回も出てくるとドクドク読みにくい。「~いたします」でも良い。

細かいことではあるが、細部まで気を遣う姿勢は読み手に好印象を与える。

販促のWEBページは顧客へのラブレターのようなもの。相手の心に届くよう細部まで注意が必要である。